

メキシコ政治情勢（2026年6月）

〔概要〕

【内政】

- 1日、外国の介入を理由とする選挙無効の新たな事由を導入する条文を憲法に追加する改正案が可決、成立した。
- 1日付エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表。シェインバウム大統領の支持率は69%。
- 3日、ロペス・オブラドール前大統領は、「シェインバウム大統領への無条件の支持及びトランプ大統領に関する敬意を込めた考察」としてXに文章を発信した。
- 15日、シェインバウム大統領は女性大臣にカステージョ上院議長を任命する予定である旨発表した。

【墨米外交】

- 3日付「ロサンゼルス・タイムズ」紙は、米国政府が組織犯罪への関与が疑われるとして、ドゥラソ・ソノラ州知事とビジャレアル・タマウリパス州知事を調査していると報じた。
- 8日、墨米外相電話会談が実施された。
- サラザール前駐墨米大使が出版予定の書籍において、ロペス・オブラドール前墨大統領が、シナロア・カルテルの最高幹部であるイスマエル・ザンバダ（通称「エル・マヨ」）の裁判で何を証言するかを懸念していたとの記述がある旨報道された。

【その他外交】

- 4日、メキシコを訪問したヴァーデフル・ドイツ外務大臣及びベラスコ外相は、第3回メキシコ・ドイツ二国間委員会「未来のための同盟」の会合を実施した。
- 22日、シェインバウム大統領は、メキシコからキューバへの石油輸出は再開されたわけではないが、キューバへ燃料を輸送する許可を持つ民間企業を通じた仕組みで、その実現に向けて取り組んでいると述べた。
- 26日、スペイン国王フェリペ6世がメキシコのグアダハラで行われるFIFAワールドカップのスペイン対ウルグアイ戦を観戦するためにメキシコを訪問した。
- 26日、メキシコ政府は24日に発生したベネズエラにおける地震に関し、261名の緊急援助隊を派遣し、10トン以上の人道支援物資を送った。

[本文]

【内政】

1 外国の介入を理由とする選挙無効にかかる憲法改正

1日、外国の介入を理由とする選挙無効の新たな事由を導入する条文を憲法に追加する改正案が可決、成立した。本決定は、選挙結果に影響を及ぼす外国による介入または干渉行為が立証された場合を、選挙無効の新たな事由として導入するもの。

2 大統領支持率等にかかる世論調査結果

1日付エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表。シェインバウム大統領の支持率は69%。概要は以下のとおり。

(1) 「シェ」大統領の取組を支持するか。

ア 支持する : 69% (前回(4月、以下同じ) 68%)

イ 支持しない : 31% (前回32%)

ウ 分からない : 0% (前回 0%)

(2) 「シェ」政府のトランプ米大統領との関係構築についての評価如何。

ア とても良い、又は良い : 40% (前回(4月、以下同じ) 37%)

イ とても悪い、又は悪い : 45% (前回47%)

(3) 墨米関係についての評価如何。

ア とても良い、又は良い : 45% (前回(4月、以下同じ) 43%)

イ とても悪い、又は悪い : 41% (前回39%)

(4) 「シェ」政府が取り組んでいるUSMCAの交渉についての評価如何。

ア とても良い、又は良い : 57% (前回(4月、以下同じ) 52%)

イ とても悪い、又は悪い : 35% (前回34%)

(5) ロペス・オブラドール前政権は天然ガス採掘のためのフラッキングに反対していたが、シェインバウム政権ではフラッキングの採用を検討している。天然ガス採掘のためのフラッキング導入への賛否如何。

ア 賛成 : 47%

イ 反対 : 49%

ウ 分からない : 4%

(6) 各分野における「シェ」政権の取組を如何に評価するか。

ア 経済

(ア) とても良い、又は良い : 48% (前回(4月、以下同じ) 48%)

(イ) とても悪い、又は悪い : 42% (前回39%)

イ 汚職

(ア) とても良い、又は良い : 30% (前回31%)

(イ) とても悪い、又は悪い : 61% (前回59%)

ウ 治安

(ア) とても良い、又は良い： 25 % (前回 32 %)

(イ) とても悪い、又は悪い： 55 % (前回 56 %)

エ 組織犯罪

(ア) とても良い、又は良い： 24 % (前回 27 %)

(イ) とても悪い、又は悪い： 66 % (前回 62 %)

オ 社会保障

(ア) とても良い、又は良い： 71 % (前回 67 %)

(イ) とても悪い、又は悪い： 28 % (前回 24 %)

3 ロペス・オブラドール前大統領による対米関係にかかる投稿

3日、ロペス・オブラドール前大統領は、「シェインバウム大統領への無条件の支持及びトランプ大統領に関する敬意を込めた考察」としてXに文章を発信。一部の米国当局者は、与党MORENAを弱体化させ、メキシコの右派野党を強化し、介入主義に忠実な政権を樹立しようとしている、と批判。トランプ大統領は一期目から変化したとし、その原因は国内外の過激な助言者にあると指摘した。

4 次期女性大臣の発表

15日、シェインバウム大統領は女性大臣にカステージョ上院議長を任命する予定である旨発表した。シェインバウム大統領は、大臣就任の日時は具体的な調整中だが、上院議長の任期終了後（8月末）になると述べた。

【墨米外交】

1 国境州知事への米による捜査報道

3日付「ロサンゼルス・タイムズ」紙は、米国政府が組織犯罪への関与が疑われるとして、ドゥラソ・ソノラ州知事とビジャレアル・タマウリパス州知事を調査していると報じた。報道によれば、両州知事の米国ビザはすでに取り消されているが、捜査協力者に適用される特別入国許可「公益上の重要な利益による仮釈放」を通じて渡航を継続している由。これに対し、両州知事はいずれも報道内容を否定。ソノラ州側は知事が有効なビザを保持しており捜査の通知も受けていないと主張し、タマウリパス州側も報道を裏付ける文書・証拠は存在しないと反論した。

2 墨米外相電話会談

8日、墨米外相電話会談が実施された。移民問題、国境におけるフェンタニルの押収量の削減、非正規移民の削減、及びUSMCAの見直しなどについて話し合われた。12日（金）にメキシコ市にて、ジョンソン大使および安全保障閣僚会議の各機関が参加する「安全保障

に関する二国間作業部会」の会合が開催される。シェインバウム大統領は、外相電話会談、米海軍高官のメキシコ訪問など、米国との意思疎通があり関係は継続していると発言。

3 サラザール前米大使の書籍報道

サラザール前駐墨米大使が7月28日に出版予定の書籍において、ロペス・オブラドール前墨大統領が、シナロア・カルテルの最高幹部であるイスマエル・ザンバダ（通称「エル・マヨ」）の裁判で何を証言するかを懸念していたとの記述がある旨報道されたところ、シェインバウム大統領は6月22日、同書籍が発売されるのを待つとしつつ、ロペス・オブラドール前大統領の真の懸念は、ザンバダのメキシコ国内での逮捕に米国の何らかの機関が関与したことであると述べ、報道で指摘されているような懸念の存在を否定した。

【その他外交】

1 ドイツ外務大臣のメキシコ訪問

4日、メキシコを訪問したヴァーデフル・ドイツ外務大臣及びベラスコ外相は、第3回メキシコ・ドイツ二国間委員会「未来のための同盟」の会合を実施した。会合終了後、共同記者会見を行い、成果文書（acta）に署名。外務省プレスリリースによれば、本文書の署名により、右委員会を構成する5つの専門委員会の主たる進展と合意が反映され、全分野における両国間の今後の交流に向けたロードマップが策定された。なお、記者会見の発言によれば、ヴァーデフル外務大臣は、5日、企業関係者との会合を実施した。

2 キューバへの石油輸出

22日、シェインバウム大統領は、メキシコからキューバへの石油輸出は再開されたわけではないが、キューバへ燃料を輸送する許可を持つ民間企業を通じた仕組みで、その実現に向けて取り組んでいると述べ、人道支援ではなく、商業的な取り組みにあると強調した。

3 スペイン国王のメキシコ訪問

26日、スペイン国王フェリペ6世がメキシコのグアダハラで行われるFIFAワールドカップのスペイン対ウルグアイ戦を観戦するためにメキシコを訪問した。同訪問はシェインバウム大統領からの招待を受けたもの。訪問中、国王はシェインバウム大統領とメキシコ市で会談を実施。シェインバウム大統領によると、会談では、先住民族の権利や国民のアイデンティティが取り上げられた。

4 ベネズエラ地震支援

26日、メキシコ政府は24日に発生したベネズエラにおける地震に関し、261名の緊急援助隊を派遣し、10トン以上の人道支援物資を送った。7月6日の記者会見によれば、現地で2名の生存者救出、遺体80体の回収等に貢献した由。